

国語 第1学年 ことばのたいそう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を、私の学級に合わせて直してください。最初に学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や必要な配慮、使える授業時間と研究授業の位置、ICTと紙の道具について、一項目ずつ質問し、答えを待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、場面の内容を確認、友達と声を合わせる場所や交代する場所を考えて音読する。声をそろえる技巧より、内容が伝わる読み方を選ぶ。このねらいを保ち、目標・評価規準・計画・本時の活動の対応を確認して全文を書き直してください。本文や台詞、挿絵、教科書固有の問題文は転載しないでください。時数や人数、時間配分は私の回答か出典があるものだけを使ってください。児童の反応を実測した事実として書かず、予想として示してください。三重の指導案の見出しの順を保ち、教師向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更した所と、その根拠となった私の回答を最後に示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第1学年 国語科学習指導案

1 単元名「ことばのたいそう」 教材名「こえを あわせて よもう」

2 単元の目標

語のまとまりや言葉の響きに気を付けて音読できる。場面の様子や人物の行動など、内容の大体を捉えられる。言葉の働きを確認、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①語のまとまりや言葉の響きに気を付けて音読している。〔知識及び技能〕(1)ク)

〔思考・判断・表現〕①「読むこと」において、場面の様子や人物の行動など、内容の大体を捉えている。
(C(1)イ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

場面の内容を確認、友達と声を合わせる場所や交代する場所を考えて音読する。声をそろえる技巧より、内容が伝わる読み方を選ぶ。学習指導要領のC(1)イを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)クを、言語活動の中で確かめる。年間計画の重点項目に加え、本案では〔知識及び技能〕(1)クを活動に関わる事項として扱う。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

教師が教材中の短い範囲を示し、だれが何をしたかを絵や動作で確認する。声を出すことが難しい児童は、間や速さの選択を指差しで示してよい。まとまりごとに交代する読み方と声を合わせる読み方を比べ、内容と照らして選ぶ。おおむね満足できる状況は、場面の様子や人物の行動など、内容の大体を捉えているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確認する支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

第1次 第1時：○人物と場面の行動を確認する。読み方を変えて試す。 評価：学習状況を見て支援する。

第1次 第2時（本時）：○様子と読み方の関係を比べる。本文を根拠に選んだ読み方を説明する。 評価：知

①・思①（発言・学習記録）

6 本時の指導（2/2）

(1) 本時の目標

場面の様子や人物の行動など、内容の大体を捉えられる。

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。

○「どこを一緒に読むと、場面の様子が聞く人に伝わりますか」

【めあて】場面の内容を確認、友達と声を合わせるところや交代するところを考えて音読する。

予想される児童の反応：・急いでいる場面なら少し速く読みたい。

指導上の留意点：本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。

【展開】

学習活動：○「どこを一緒に読むと、場面の様子が聞く人に伝わりますか」

自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを見せて説明し、聞き手は分かったところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。同じ場面を、速さ・声の強さ・間を変えて音読する。友達が受け取った場面の様子を聞き、人物の行動と合う読み方を選ぶ。声を合わせる場合は、読み始める箇所や交代する箇所も内容と結び付けて決める。

予想される児童の反応：・急いでいる場面なら少し速く読みたい。

・大きな声とは限らないと思う。

・本文のこの動きから考えた。

指導上の留意点：教師が教材中の短い範囲を示し、だれが何をしたかを絵や動作で確認する。声を出すことが難しい児童は、間や速さの選択を指差しで示してよい。まとまりごとに交代する読み方と声を合わせる読み方を比べ、内容と照らして選ぶ。

想定するつまづき：本文にない性格を決めつける、大声にするだけで人物らしさを表す。

児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。

評価：思① 場面の様子や人物の行動など、内容の大体を捉えている。(発言と学習記録)

知① 語のまとまりや言葉の響きに気を付けて音読している。([知識及び技能] (1)ク) (使った言葉・音読や表記の確認)

【まとめ】

学習活動：【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。

学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。

予想される児童の反応：・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。

・本文のこの動きから考えた。

指導上の留意点：まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。

評価：態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画 (縦書き・右から左へ)

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「どこを一緒に読むと、場面の様子が聞く人に伝わりますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

